

インターバンクの声（2016 年 1 月 27 日）

少なくとも今週前半のドル円相場は、米連邦公開市場委員会（FOMC）と日銀金融政策決定会合が週後半に控えていることから大きな変化はないだろうと高を括っていた。昨日の東京時間、仲値が発表される前後に 118 円を割れそうになった場面を我慢したので、その後はドルが買い戻されるだろうとのシナリオを描いていた。しかし、その後もドルの上値は重く、日経平均株価の下落にはどうにか耐えていたものの上海株の下落幅が拡大すると、今度はたまたまドルの下げ足が速まった。117 円中盤が近づき、このまま再び先週の 116 円、115 円台を目指すのかとも思われたが、まさかニューヨーク時間に向けて 118 円台後半まで反発するとは思わなかった。欧米市場に入ってから原油価格の反発や下げて始まっていた英 FT や独 DAX などがプラス圏にまで上昇していたことなどがドルの買い戻しに繋がっていたようだ。1 月 6 日以来遠ざかってしまった 119 円台も手が届きそうな水準になっているが、さすがに実際に 119 円超えを試すのは FOMC や日銀会合の結果を見てからになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。